

3 アセスメントツールの活用方法について

アセスメントツールを活用することの効果

- (1) 学級全ての子供の状態を共有できる
- (2) 早期対応が必要な子供を発見できる
- (3) 早期対応が必要な子供に対する適切な対応を検討し、関係する教職員で役割分担ができる



不登校の未然防止と早期発見・早期対応につながる

(1) 学級全ての子供の状態を共有できる

3 アセスメントツールの活用方法について

(2) 早期対応が必要な子供を発見できる

3 アセスメントツールの活用方法について

状態 2

- ・週3日以上欠席
- ・登校できている、保健室や別室を週半分以上利用

対応例

- ・子供に声を掛け、じっくりと寄り添う。
- ・保護者に、子供の様子が心配であることを伝え、家庭での様子を聞く。
- ・欠席理由、対応状況等を管理職に報告する。
- ・支援チーム会議を開催する。



状態 3

- ・登校できていない
- ・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）には定期的に通うことができている

対応例

- ・子供が通える場所に教職員が出向いて学校の様子を伝えたり、学習支援を行ったりするなどして、再登校に向けた準備を行う。
- ・子供の思いを確認したあと、時差登校や別室登校など無理のない登校方法を提案する。



状態 4

- ・登校できていない
- ・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている

対応例

- ・教育支援センターや別室登校、放課後登校や行事への参加などを本人や保護者に勧める。
- ・無理強いせず、少し間をおいて登校や行事への参加などを再度勧める。



状態 5

- ・外出も登校もできていない
- ・家では落ち着いた生活ができている
- ・家族と関わる事ができている

対応例

- ・子供の興味に従って、散歩や買い物など、できる限り外出を勧める。
- ・何が気になって外出できないのかを聞くなど、相談にのるとともに、家でできる活動も考える。



状態 6

- ・外出も登校もできていない
- ・家ではほとんど自室から出ない
- ・家族と関わることができていない
- ・心理的に不安定である
- ・生活リズムの乱れが大きい

対応例

- ・十分な睡眠時間や食事の確保など、生活の安定を最優先とする。
- ・医療や福祉などの専門機関との連携を図る。



状態 1 ~ 6 の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6	
外出状況	外出できていない	外出できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない	
登校状況	毎日登校できている	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない	
状態の詳細	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <p>SOSサインなし</p> <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 	<p>SOSサインあり</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 	<p>週1~2日欠席</p> <p>選別や早退がある</p> <p>保健室や別室を退室分以上利用している。</p> <p>保健室や別室をしばしば利用している。</p>	<p>週3日以上欠席</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことができる。</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由に行っている。</p>	<p>登校できていない</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことができる。</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由に行っている。</p>	<p>登校できていない</p> <p>家でほとんど自室から出ない。</p> <p>家族と関わることができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>登校できていない</p> <p>家でほとんど自室から出ない。</p> <p>家族と関わることができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	
子供の氏名	いちろう ひろふみ ともふみ	さとし りょう たかお	さき ともこ なおき	ひでこ なおみ ようへい	かつみ こういち	ちほ るみこ	みのる	りな

子供は、どんな気持ちで登校しているのかな？

悩みを抱えているのかな？



毎日登校できている子供の中に...

仮面登校

授業不参加型

基本的には教室で過ごすものの、みんなとは違うことをしがちで、授業の活動に参加している時間が少ないケース



授業参加型

基本的には教室で過ごし、みんなと同じことをするが、心の中では学校に通いたくない、学校が辛いと感じているケース

学校に行きたくないな。学校が辛いな。



諸富祥彦著『学校に行けない「からだ」』を基に作成

ポイント SOSサインは何らかの対応が必要な可能性があります

**SOS
サイン**

- ・身体の不調を訴える
- ・やる気がない
- ・学習が遅れている
- ・いつも眠そうである
- ・友達とのトラブルが多い
- ・ルールを守らない など

五十嵐哲也ら編著『学校で気になる子どものサイン』を基に作成

演習 2

状態0 (SOSサインあり) の子供をアセスメントする

状態	状態0			
外出状況	外出できている			
登校状況	毎日登校できている			
状態の詳細	SOSサイン (※1)	・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など		
	SOSサインなし	SOSサインあり		
状態の詳細	SOSの要因を3つの観点から検討	SOSの要因 (3つの観点から)		
		心理面 「学力・学習」「情緒」「社交性」 「集団行動」「自己有用感」 「自己肯定感」「関心」「意欲」 「過去の経験」	身体・健康面 「睡眠」「食事」「運動」 「疾患」「体調不良」 「特別な教育的ニーズ」	社会・環境面 「児童生徒間との関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」 「家庭背景」「地域での人間関係」
子供の氏名	どの観点から対応を始めるか検討 いろいろ ひろふみ ともふみ	心理面の対応から さとし りょう たかお	社会・環境面の対応から きみ ともこ なおき	身体・健康面の対応から ひでこ なおみ ようへい

演習 2

状態0 (SOSサインあり) の子供のアセスメントの手順

- ① SOSサインの有無を確認
- ② SOSの要因を3つの観点から検討
- ③ どの観点から対応を始めるか検討
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討



演習 2

ポイント 子供のSOSの要因を、関係する教職員で心理面、身体・健康面、社会・環境面の3つの観点から検討しましょう

SOSの要因 (3つの観点から)

心理面

「学力・学習」「情緒」「社交性」
 「集団行動」「自己有用感」
 「自己肯定感」「関心」「意欲」
 「過去の経験」

身体・健康面

「睡眠」「食事」「運動」
 「疾患」「体調不良」
 「特別な教育的ニーズ」

社会・環境面

「児童生徒間との関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」
 「家庭背景」「地域での人間関係」

演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

SOSサイン

- ・やる気がない
- ・学習が遅れている
- ・友達とのトラブルが多い
- ・いつも眠そうである
- ・身体の不調を訴える
- ・ルールを守らない など



演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討



演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

食欲がないことも、心理面が関係しているかもしれません。(養護教諭)



演習2 STOP II

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインあり) の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6
外出状況	外出できていない	外出できている	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない
登校状況	SOSサインあり	SOSサインなし	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり
状態の詳細	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「便秘」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 	<p>SOSサインなし</p> <p>SOSサインあり</p>	<p>SOSサインあり</p>	<p>SOSサインあり</p>	<p>SOSサインあり</p>	<p>SOSサインあり</p>	<p>SOSサインあり</p>
子供の氏名	いちはら ひろふみ ともふみ	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお

演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

① SOSサインの有無を確認する

② SOSの要因を3つの観点から検討する

③ どの観点から対応を始めるか検討する

④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

さとしさんは、最近特に気になるので優先的に対応していきたいと思っています。(担任)

進路の悩みもあるようなので、進路担当にも相談できるとよいですね。(学年主任)

今月中に安心して学習できる場所を提供することも必要ですね。(教育相談担当)

明日から声掛けや情報共有をしましょう。(教科担任)

管理職への報告も必要ですね。(養護教諭)



演習2 STOP

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインあり) の子供の中で、優先的に対応する子供の選定と対応策の検討をする

優先的に対応する子供の選定と対応策の検討	対応記入欄(いつ・だれが・なにを)		
	【 さとし 】への対応	【 】への対応	【 】への対応
女いつ 1. 明日から 2. 来週までに 3. 6月中 (例) <input type="checkbox"/> 観察・記録 <input type="checkbox"/> 情報共有 <input type="checkbox"/> 教育相談 <input type="checkbox"/> 声掛け <input type="checkbox"/> 仲間づくりを意図した取組 <input type="checkbox"/> 安心できる場所の提供 <input type="checkbox"/> SC、SSWとの連携 <input type="checkbox"/> 支援チームの発足・チーム会議 <input type="checkbox"/> 相談機関紹介	女いつ ☆だれが 1. 担任、教科担任、養護教諭 2. 進路担当、担任、養護教諭 3. 担任、学年主任、養護教諭、教育相談担当 ☆なにを 1. 声掛けと情報共有を行う。 2. 学習や進路について悩みを聴く。 3. 安心して学習できる場所を提供する。	女いつ ☆だれが ☆なにを	女いつ ☆だれが ☆なにを

演習3

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインなし) の子供をアセスメントする

状態	状態0		
外出状況	外出できている		
登校状況	毎日登校できている		
状況の詳細	SOSサイン (※1) ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <small>五十嵐恵子ら編著『中学校で気になる子どものサイン』より</small>		
	SOSサインなし SOSサインあり SOSの要因を3つの観点から検討 心理面 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」		
	子供の氏名	どの観点から対応を始めるか検討 心理面の対応から さとし りょう たかお	社会・環境面の対応から きみ ともこ なおき

演習3

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインなし)

- ・毎日登校している
- ・SOSサインはない

対応例

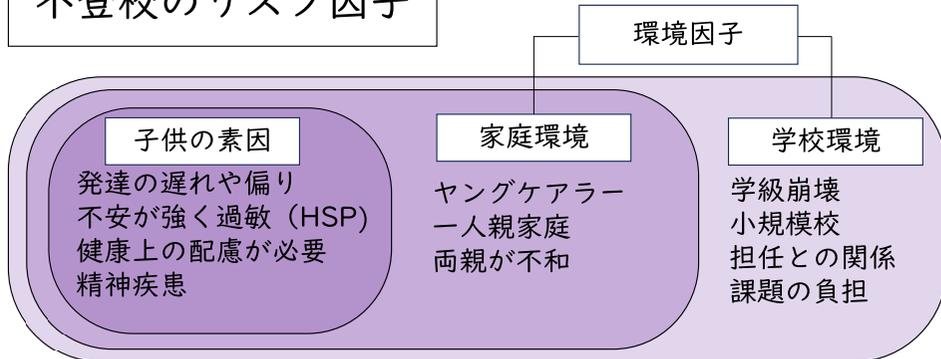
- ・教育相談を行い、子供の心に寄り添って話を聴くという関わりを重ねる。
- ・挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通じた個と集団への働き掛けを行う。
- ・よいところを褒めたり認めたりすることで自己肯定感を高める。
- ・不登校のリスク因子を考慮して観察を行う。



状態0 (SOSサインなし) の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6
出席状況	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない	登校できていない
状態の概要	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <p><small>五十嵐啓介ら編著『学校で起る子どもたちのサイン』より</small></p> <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSサインなし</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>S O S の 要 因 (3 つ の 観 点 から)</p> <p>「心理面」 「身体・健康面」 「社会・環境面」</p> <p>「学力・学習」「継続」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「感情」「過去の経験」</p> <p>「睡眠」「食事」「運動」「病態」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」</p> <p>「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「地域での人間関係」</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができています。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできています。</p> <p>家で落ち着いて生活ができています。</p> <p>家族と関わる事ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わる事ができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>週1~2日欠席</p> <p>週3日以上欠席</p> <p>登校できていない</p>				
子供の氏名	<p>いしろう ひろふみ ともふみ</p>	<p>かつみ こういち</p>	<p>ちほ るみこ</p>	<p>みのる</p>	<p>りな</p>		

不登校のリスク因子



ポイント 不登校のリスク因子は常に念頭に置き、当てはまる子供は特に注意して見守っておきましょう

小柳憲司著『不登校の子どもを支える』pp.62-63を基に作成



ポイント 定期的に、関係する教職員でアセスメントしたり、「チーム学校」で情報共有したりすることで、不登校の未然防止と早期発見・早期対応につなげていきましょう